

関西電力株式会社殿  
本店〒530-8270 大阪市北区  
中之島3丁目6番16号  
代表 06-6441-8821  
中部電力株式会社殿  
本店 T461-8680 名古屋市東区東新町1番地  
代表 052-951-8211

三菱電機株式会社殿  
〒100-8310 東京都千代田区丸の内  
二丁目7番3号 TEL 03-3218-2332

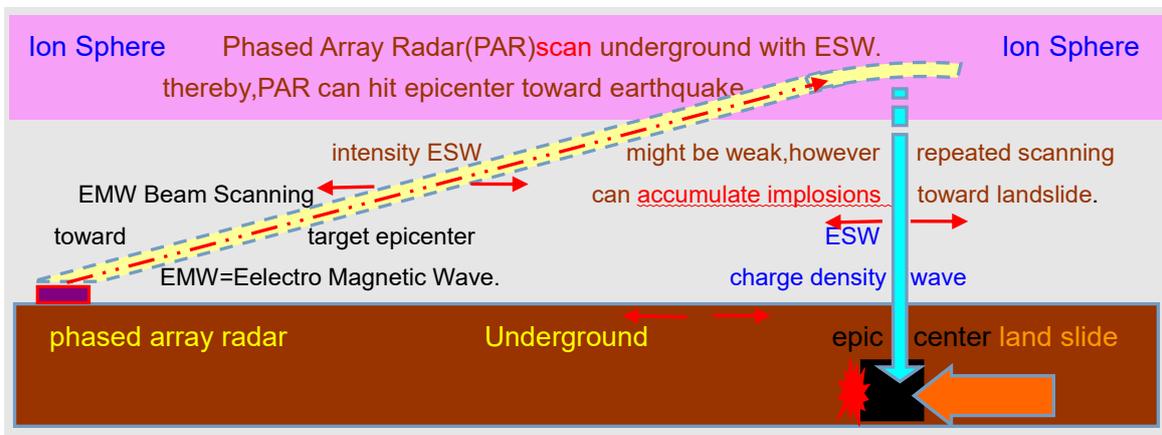
件名:危険脅威につき京都大学MULレーダ(滋賀県)給電緊急停止を再度要望します。  
事態重大性に鑑み、疑わしきは罰すべきの強硬姿勢を強く要請します、  
国民生活安全保証重みからすれば彼ら研究停止は価値無視可能です。2023/5/11,12,19,20.  
[地震兵器嫌疑につきMULレーダ給電停止の緊急要望公開書簡\(2020/4/4\)](http://777true.net/the-convergence-to-genuine_J153-STOP-MU.pdf)  
[http://777true.net/the-convergence-to-genuine\\_J153-STOP-MU.pdf](http://777true.net/the-convergence-to-genuine_J153-STOP-MU.pdf)

### 研究者尋問からの嫌疑趣旨:

(1)電離層から再放射される電荷密度波が震源破壊能力を持つ議論から研究者逃避。  
地震兵器 HAARP はナチス再生国米開発、MU 研究者も電話会談で VHF ビーム波での電離層 ion heating 実験歴史を認めてます。核心の電離層電子密度変調からの地上放射電荷密度波、これが超高压震源層岩石化学結合破壊<震源すべりだし開始>の触媒作用、エネルギー爆発ではない。  
電荷密度波話し以後、電話応対に出ない。

(2)研究に悪意不正がなければ研究者説明に嘘は無用のはず！！

MUレーダ最大機能は強度放射エネルギーを保持したまま電離層を強度励振、これをビーム波と言  
い、その意味は素人も知る通り、研究者との電話問答で、彼は遠方から MU 見れば一点に見える、  
だから放射は波動が広がる球面波になると大ウソ、実態はレーダ面積を維持したままの平面波  
強力ビーム、これが電離層電荷密度を強震共振で、再放射波は地上地層侵入で震源化学結合  
破壊、爆発の逆の内破、震源がつぶれると歪力解放の滑り開始になり、最高速度(1m/1 秒程度)  
で衝突衝撃波の伝搬が地震、常識ではノロいが動く地層が超巨大重量 G(横=数 10km,幅 1km 前  
後,高さ震源深度数 10km)。G の大きさが地震規模を決めます。



震源域は過去情報から既知なれど、個別大震源は不明故に、広域掃引で当てるだろう、  
なれば近傍の震源も複数点照射結果、多点のほぼ同期同規模の強地震になりえるだろう、

参考証言:

[【HAARP・気象・災害】こどもの日の能登半島地震は HAARP 照射によるものだったのか？](#)

2023 年 05 月 09 日

<https://quasimoto4.exblog.jp/33250145/>

同時多点の地震発生はおかしい<鈴木要約>、筆者井口氏は 2011/3/11 東北大震災予言で知られてる。

2023\_5\_5 能登地震、東北-熊本地震 類似再度の地震兵器嫌疑！

<http://777true.net/Noto-Earthquake-20230505-the-Suspicion.pdf>

<鈴木>動く地層＝巨大重量大きさが地震規模を決めます。疑点核心は誘発小地震多発はあり得るが、大規模後続地震には滑り出しに長時間がかかる、[短期連発多点強地震はおかしい](#)。

私たちの価値観

<https://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/gaiyo/rinen/index.html>

倫理・遵法: : 社会規範及び法令を遵守し、高い倫理観を持ち行動する。

京都大学と三菱電機で開発の MU レーダーが「IEEE マイルストーン」に認定

<http://www.mitsubishielectric.co.jp/news/2015/0513.pdf>

MULレーダー諸元	
位 置	滋賀県甲賀郡信楽町(34° .51' N, 136° 06' E)
中心周波数	46.5 MHz
周波数帯域	3.5 MHz (1.65 MHz : 2003年まで)
アンテナ	直交八木アンテナ475本
構 造	直径103m円形アレイ
機 能	電子ビーム方向走査
ビーム幅	3.6°(半値全幅)
送信出力	1 MW (尖頭電力)

2015/5/13 日京都大学生存圏研究所  
三菱電機株式会社

1984 年にアンテナ 475 本(直径 103m)、出力 1MW の MU レーダーが完成しました  
コンピューター制御でレーダービームを全方位に、最短 400 $\mu$ s の高速で走査しながら高度数百 km までの大気の動きをリアルタイムに観測できる世界一高性能※3な大気レーダーです。世界初の大規模大気レーダー(MST/IS レーダー(中間圏・成層圏・対流圏観測/非干渉散乱レーダー))

## お問い合わせ先

京都大学生存圏研究所 教授 山本 衛

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 TEL 0774-38-3814 FAX 0774-31-8463

E-mail: yamamoto@rish.kyoto-u.ac.jp

三菱電機株式会社 広報部 伊藤 学

〒100-8310 東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 3 号 TEL 03-3218-2332

FAX 03-3218-2431

E-Mail: Ito.Manabu@cs.MitsubishiElectric.co.jp

## 高周波活性オーロラ調査プログラム

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E5%91%A8%E6%B3%A2%E6%B4%BB%E6%80%A7%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%AD%E3%83%A9%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0>

1980 年代の終わりから建設が始まり、2005 年の終わり頃に完成したとされる。HAARP 研究施設の建設には、2 億 9000 万ドルもの投資が成された。

## 付録1:能登地震

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%83%BD%E7%99%BB%E5%8D%8A%E5%B3%B6%E5%9C%B0%E9%9C%87>

従来はこの地域は地震空白地だと言う！。石川県内で震度6を観測したのは観測開始以来初  
1993/2/07 能登半島地震 37N137E,(M)6.6 深さ25km

2007/3/25 石川県輪島市西南西沖 40km 日本海(M)6.9,深さ11km

### 地殻流体によって誘発された能登半島の群発地震

<https://www.iitech.ac.jp/news/2022/065274>

2020年12月から活発化した能登半島北東部の群発地震の原因は未解明だった。地震波データの解析から、非火山地域である能登半島下に地殻流体が広く存在することを明らかにした。

この地殻流体の上昇が群発地震の原因であることを突き止めた

☞:地殻流体→地震の因果メカニズムを知りたい？

注水地震\_核融合エネルギー値の仮定と必要水量(mol 計算)<非常に粗推定>2016/4/25

[http://777true.net/the-convergence-to-genuine\\_J48-Water-Injection-Earthquake-the-Mechanism.pdf](http://777true.net/the-convergence-to-genuine_J48-Water-Injection-Earthquake-the-Mechanism.pdf)

過去に地震が無い地域で地震が起きた、既成地震理論＝地下プレートエネルギー蓄積が無い地域で地震が起きるには地下での爆発エネルギーが必要、化学爆発では難しい、何と小規模核融合？！！

その準定量基礎を以下で提供、**水がわずかに数十gでもM2の地震が可能！！。**

**もし地下歪エネ蓄積域だとそれを引き金にM4～7地震発生の可能性が起きる。**

1:高電子濃度の金属表面は静電反発力減少に触媒作用、それが常温核融合反応に、

2:他方で超高压下では全物質は金属化する。

かくて核心は震源高压岩石亀裂面が核融合触媒空間になる事の証明。

☞:分子とスイカは似てる、スイカを圧力潰しすると種がにじみ出る、分子を超高压でつぶすと中から電子が表面析出、高濃度電子密度空間＝白金表面は優良触媒で有名、過去に常温核融合を実現、当時は詐欺扱いですが、今ではビジネス化にまで進展中.....

<http://www.777true.net/img0010-General-Analysis-on-Room-Temperature-Nuclear-Fusion.pdf>

### 参考情報:

LAST QUAKE the official ESMC app

<https://www.emsc-csem.org/#2w>

世界の全地震情報が網羅されてます！！！！

地震の揺れと被害想定について確認しておきましょう

<https://www.town.yoichi.hokkaido.jp/kurashi/kurashinojouhou/bousai/files/jishin.pdf>

体感と報道データの一致？！！

## 付録2:千葉館山地震 M5.2-40km.

筆者宅体感では寝てたので安定でしたが直下的な短周期振動短時間持続、深さ 40km だと高周波減衰で長時間持続なのでは？、一般に地震は 20km が限度と言われるので、MU ではないように思えるのだが、MU だと非常に長期照射しないと深さに届かないだろう、電荷密度波は減衰しないが、乱結晶散乱はする、微弱でもクリープ小破断は累積で大破断化する。この場合は照射広域化なので今後も近傍で多点多発するだろう。一週は観察しないと判らない。長時間経過後だとより大きい地震になる<大地震＝長期滑り時間>。

5月11日(木)4時16分頃、千葉県で最大震度5強を観測する地震がありました。

震源地:千葉県南部

マグニチュード:5.2

震源の深さ:40km

<https://weathernews.jp/s/topics/202305/110416quake/>

マグニチュード Mw 5.2

領域 本州東海岸付近

日付時刻 2023-05-10 19:16:42.5 UTC

位置 35.09N ; 140.06E

深さ 40km(直後のデータは 70km ? といささか信じがたい値だったと記憶)

<https://www.emsc-csem.org/Earthquake/Map/gmap.php>



阪神淡路大震災はベクテル社が工事した明石海峡大橋真下が震源地

ベクテルある所に地震あり,2023年5月12日15:49:41

<http://www.asyura2.com/17/jisin22/msg/895.html>

気象庁は人工の場合平気でウソをつくことを目の当たりにしてきました。

気象庁は地震波形の無登録実時間一般公開がない、

「ベクテル社と海ほたる地震の関係」(EJ第4203号)2016年01月26日

<http://electronic-journal.seesaa.net/article/432968080.html>

### 付録3:能登地震慢性化原因?!

- ①熊本 2016 は慢性注水地震、**超高压岩盤面は白金類似の触媒!**、小核融合爆発が原因、頻度小の大きい地震は小地震が引き金、地面から放射検出の話も聞いてます。
- ②多発弱地震 M1,M2 は熊本と同じ機構か?
- ③頻度小なれど被害大の M4,5,6 は注水地震では説明不可能、プレート歪力解放力、
- ④M4,5,6 **短期同期多発**は地震兵器嫌疑、で犯罪者MUL-ダの動機?~高学歴高慢のΩ真理教 京大には 731 部隊残虐反人道の前科!、会社に電力供給停止を請願してます<本件>。

### 地震履歴(石川県能登地方)-地震情報-Yahoo!天気・災害

<https://typhoon.yahoo.co.jp/weather/jp/earthquake/list/?e=390>

#### 強い地震が時間同期の異常例=HAARP 嫌疑の過去履歴

2023年5月9日 5時14分ごろ	石川県能登地方	4.9	4
2023年5月5日 23時18分ごろ	石川県能登地方	4.5	4
2023年5月5日 21時58分ごろ	石川県能登地方	5.8	5強
2023年5月5日 14時42分ごろ	石川県能登地方	6.3	6強
2022年6月20日 10時31分ごろ	石川県能登地方	5.0	5強
2022年6月19日 15時08分ごろ	石川県能登地方	5.2	6弱
2021年9月16日 18時42分ごろ	石川県能登地方	5.2	5弱
2020年3月13日 2時18分ごろ	石川県能登地方	5.4	5強
2010年2月7日 19時33分ごろ	石川県能登地方	4.0	4
2008年1月26日 4時33分ごろ	石川県能登地方	4.8	5弱
2007年5月2日 20時44分ごろ	石川県能登地方	4.7	4
2007年4月6日 15時18分ごろ	石川県能登地方	4.3	4
2007年3月28日 8時08分ごろ	石川県能登地方	4.9	5弱
2007年3月25日 18時11分ごろ	石川県能登地方	5.3	5弱

### 本件地震兵器根拠要約:

問題は被害甚大の**大地震**、だが巨大歪力成長には数10年等の長時間かかり**頻発**できないです、**他方、大小ともあれ地震発生が震源すべりだし引き金になり、誘発地震は事実です、その時、小地震は滑り出しから衝突地震発生まで短時間、連発が可能、大地震は滑り出しから衝突地震発生まで長時間、連発が不可能、**

同規模大地震連発ならば、ソモ引き金時期が同期していた

引き金=**電磁地震兵器広域多点震源照射!!!**

付録4:地震関連サイト<抜粋引用先:<https://kaleido11.blog.fc2.com/>>

日本で発生した地震(気象庁震源リスト)

<http://eqdata.sakura.ne.jp/epicenterList/>

地震マップ

<http://eqmap.web.fc2.com/>

Earthquake Prediction

<http://www.quakeprediction.com/>

NASA (USA) グローバル TEC マップ [5分毎] **△**

<http://web.matrix.jp/nasa-min/>

HAARP

[https://www2.irf.se/Observatory/?link\[Magnetometers\]=Data/mag.html](https://www2.irf.se/Observatory/?link[Magnetometers]=Data/mag.html)

USGS

<https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/map/?extent=-10.83331,-149.41406&extent=53.33087,-13.35938>

木村政昭 HP

<http://kimuramasaaki.sakura.ne.jp/site2/>

地震前兆掲示板 **△**

<http://jisbbs.com/>

地震解析ラボ **△**

<https://bosailab.jp/lab/>

東海大学・長尾教授 **△**

<https://www.sems-tokaiuniv.jp/EPRCJ/>

補遺: **△**印と地震電磁気学直前予知。

☞: 下記提示如く物理原理は明確、予知不能を言う既存地震学会が非科学待遇は逆さま不当!!  
地震学会に限らず、コロナ対応医学会、気候変動沈黙気候学会と国民生命無視のΩ真理教に近い、

基本原理: 地表電荷の地震直前震源回帰移動に伴う電離層変動。

(1)物性物学定理として全元素は超高压化で金属化、表面に自由電子析出。触媒空間になる。

(2)高電荷密度触媒空間では元素の電荷消滅、化学結合消滅→電荷密度波震源破壊(HAARP),

重水素原子核間の電荷反発消滅→常温核融合→超高压岩盤面での注水微小核爆発力地震

(3)地震発生前超高压震源で疑似金属化元素の電子が震源域を離れ地表負電荷大析出<sup>1)</sup>。

—宏観異常現象—

(4)静電誘導で電離層下部は正帯電、所が震源滑走開始震源圧緩和で地表電子が震源回帰

(5)この結果電離層電荷反転電子濃度上昇が反射鏡となり、FM波遠方伝搬異常等が起きる。

(6)地震頻発古代を生き延びた爬虫類、ほ乳類はこの電磁環境変化敏感で逃避行動を示す。

(7)電離層と地表の大規模電荷変化はイオン大量雲にも異常変化を起こす、

(8)地電流観測にも異常変化が検知できる、

<sup>1)</sup>☞電荷暗黒穴理論: 電界一様空間では電荷実在でも電荷観測0になる。

[http://www.777true.net/Earthquake-Prediction-by-Phenomena-of-Seismic-Electromagnetism1\\_2.pdf](http://www.777true.net/Earthquake-Prediction-by-Phenomena-of-Seismic-Electromagnetism1_2.pdf)

$\rho = \text{div } \mathbf{D}(x)=0, <\partial D/\partial x=0>, ,,$ 電荷が密に集積すると電界空間変化は0に収束する、

この結果、大規模電子が地表に集まる、電磁気学結論として表面集積が最小 potential になるから。

<sup>2)</sup>☞ナマズ、電気鰻と側線神経:: 電界検知能力を有する、他生物でも退化ながら有する。

付録5:地震規模と時間経過規模の非常に粗い推計。

断層長 L, 幅 W, 変異量 D の比率が地震規模無関係に約一定で相似のスケーリング則

地震モーメント.

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%9C%B0%E9%9C%87%E3%83%A2%E3%83%BC%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%88>

経験的に地震規模と断層長・変位量の目安が分かっている。断層長、幅、変異量の比率が地震規模に拘わらずほぼ一定で相似と見做すスケーリング則が成立している。

断層面剛性率 P (圧力 pascal)、断層面積 A (m<sup>2</sup>)、PA = F <newton>, 断層全体変位(すべり)量 D (m)、

A=LW

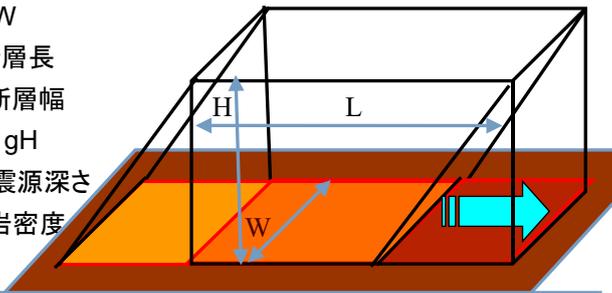
L=断層長

W=断層幅

P=ρgH

H=震源深さ

ρ=岩密度



地震エネルギー M=PAD=FD <Joule>

M6.0,, E=0.631x10<sup>14</sup>Joule.

D=0.6m

→F=E/D=0.631x10<sup>14</sup>/0.6=PLW.

L=13km,

P=ρgH,

W=F/L ρgH

g=9.8m/s<sup>2</sup>→1

ρ=2.7×10<sup>3</sup>kg/m<sup>3</sup>. <筆者仮定値>

H=10km 震源深度,, W=F/PL=300m, ?

H=20km 震源深度,, W=F/PL=150m ? ,

震源滑走最終速度 v 粗推計

E~Mv<sup>2</sup>/2=ρVv<sup>2</sup>/2;; V=LWh....(h<H)

v=√(2E/M)=√(2E/<ρLWh>)=√<Q/h>

Q=2E/ρLW=2HE/F=2HD.....D=0.6m.

v=√<Q/h>=√<2HD/h>≐1.1m/s.?.<h=H>

弾性反発理論異常\_震源物理学&流体力学地震学.

[http://www.777true.net/elastic-rebound-theory-anomaly\\_epicenter-physics\\_fluid-seismology.pdf](http://www.777true.net/elastic-rebound-theory-anomaly_epicenter-physics_fluid-seismology.pdf)

<https://www.s-yamaga.jp/nanimono/chikyuu/chikyunokocho-01.htm>

M(N+1)/M(N)=10<sup>(1/2)</sup>の scale 比での地震規模の粗推計

\* 白地データは地震モーメントからの引用。☞ 数値は例えば±50,100%とかの大幅誤差あり。

	断層長 =L	変異量 =D	幅 W=E/DL(Hρg), P=Hρg.. ρ=2.7×10 <sup>3</sup> kg/m <sup>3</sup> , g≐1m/s <sup>2</sup>			Joule E=D(LW)P 地震形成 energy	震源 歪形成 成長時間	震源 破壊時間 =滑走 →衝突
			H=10km	H=20km	H=30km			
			2.7x10 <sup>7</sup>	5,4x10 <sup>7</sup>	8.1x10 <sup>7</sup>			
M1	40m	0,02m	7.4m	3.7m	2.5m	0.200x10 <sup>7</sup>	0.05 年	0.038
M2	120m	0,063	23.5m	11.7m	7.83	0.631x10 <sup>8</sup>	0.16 年	0.12
M3	400m	0,2m	74m	37m	25m	0.200x10 <sup>10</sup>	0.5 年	0.38
M4	1,27k	0,63	0.235k	0.12km	78m	0.631x10 <sup>11</sup>	1.6 年	1.2 日
M5	4km	2m	0.74km	0.34km	0.25km	0.200x10 <sup>13</sup>	5 年	3.8
M6	12,7k	6,32	2.35km	1.2km	0.78km	0.631x10 <sup>14</sup>	16 年	12
M7	40km	20m	7.4km	3.4km	2,5km	0.200x10 <sup>16</sup>	50 年	38
M8	127k	63.2m	23.5km	11.7km	7.83km	0.631x10 <sup>17</sup>	160 年	120
M9	400k	200m	74km	34km	25km	0.200x10 <sup>19</sup>	500 年	380 日

scaling 則 ; ; ; energy U=変位×力=U=Df=DM(d<sup>2</sup>x/dt<sup>2</sup>)=D<L<sup>3</sup>ρ>(d<sup>2</sup>x/dt<sup>2</sup>).

時間空間の k 倍 scaling:::U(k)=kD<k<sup>(2/3)</sup>L<sup>3</sup>ρ>(d<sup>2</sup>(kx)/d(k<sup>2</sup>t))=k<sup>3</sup>U

質量 M に関わる scaling は3次元でなく、2次元だから面積力=圧力 P という意味か??

\* 震源歪形成成長時間に関わる引用先:

痕跡調査で浮かぶ「スーパーサイクル」“超”巨大地震の周期

[https://www3.nhk.or.jp/news/special/saigai/select-news/20210311\\_01.html#:~:text=%E7%8F%BE%E5%9C%A8%E3%80%81%E5%9B%BD%E3%81%AE%E5%9C%B0%E9%9C%87%E8%AA%BF%E6%9F%BB,%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%81%A8%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82](https://www3.nhk.or.jp/news/special/saigai/select-news/20210311_01.html#:~:text=%E7%8F%BE%E5%9C%A8%E3%80%81%E5%9B%BD%E3%81%AE%E5%9C%B0%E9%9C%87%E8%AA%BF%E6%9F%BB,%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%81%A8%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82)  
国の地震調査研究推進本部は岩手県沖南部から茨城県沖の領域全体が一気にずれ動くマグニチュード9程度の巨大地震は平均で550年から600年に1度の間隔で発生しているとしています。

<防災週間>関東大震災 消えた「69年周期説」

<https://weathernews.jp/s/topics/201808/290255/#:~:text=%E7%B4%84200%E5%B9%B4%E9%96%93%E9%9A%94%E3%81%A7,%E3%81%A7%E7%99%BA%E7%94%9F%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>  
「確かに次の巨大地震は100年以上先になるでしょうが、プレート内地震は70~80年周期とされています。M7クラスの地震はいつ起こってもおかしくないのに油断はできません」(都司さん)

Earthquake cycle

[https://en.wikipedia.org/wiki/Earthquake\\_cycle](https://en.wikipedia.org/wiki/Earthquake_cycle)

Gutenberg–Richter law <Spring-Slider Model >

[https://en.wikipedia.org/wiki/Gutenberg%E2%80%93Richter\\_law#Background](https://en.wikipedia.org/wiki/Gutenberg%E2%80%93Richter_law#Background)

上記の簡単な模型は実際に再現するそうです！！

補遺: 現代の真の戦争は鉄砲爆弾戦争でない、生物兵器、地震兵器、そして気候破壊戦。

**現代におけるの軍事実力\_古典兵器では戦われない!**

<http://777true.net/The-Actual-Military-Power-in-Coming-on-World.pdf>

筆者報告<生物兵器、地震兵器、気候破壊戦>が真に有効かは確認のしようがないが、本来責務にある医学界・地震科学者、気候科学者や国防軍隊の**大規模怠慢**で、切迫実情でやってしまった。

**契約第一原理での納税者国民負託**により給与地位を保証された医学界・気候科学者、地震科学者、自衛隊の**国防義務**、現状は全く逆さま、契約原理が成立せねば正常社会は破綻！。

”神聖な職責”を忠実に真っ当してください。筆者も自分本業が出来ません！！

\*地震と地震兵器に関し、筆者はまだ**地震兵器実力真相**に届いていない気がする、

日時のタイミングが政治状況に合はずる、筆者現状体力では限界で野心家に期待したい、

## 震源滑走時間に關与するとみられる奇異な資料コピー

### 地震発生過程のスケール依存性

縦軸が相当、しかるに論文中に定義明示がないです。

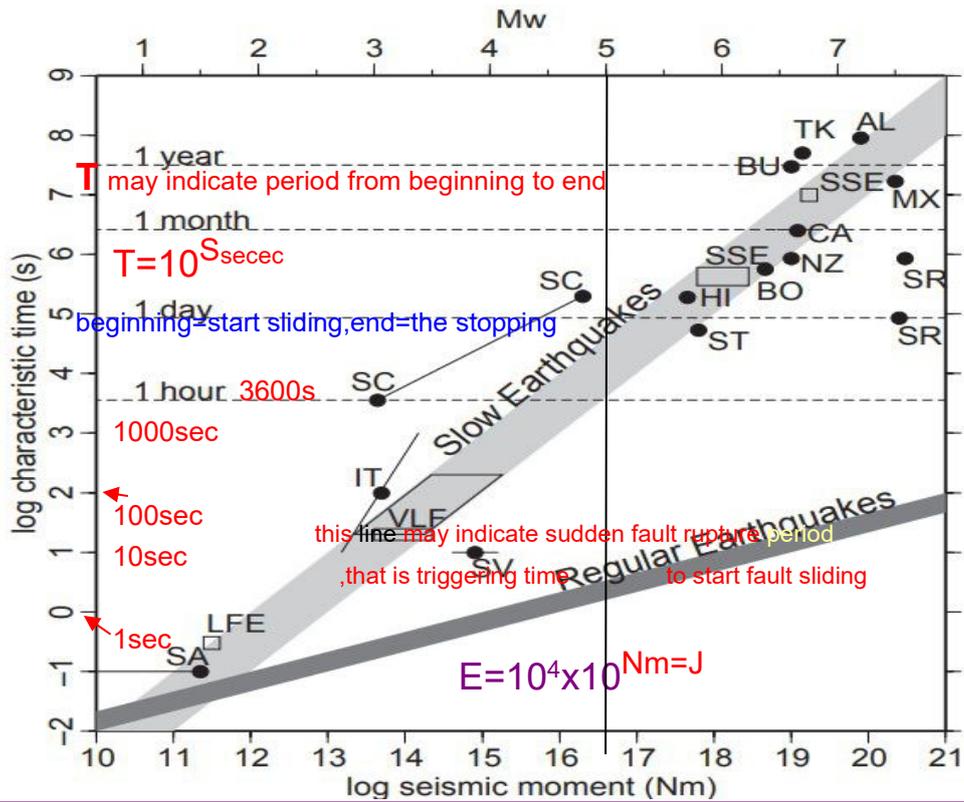
URLコピーが動作しないです。提供者に感謝申し上げます。

M8 の大規模が REGULAR EARTHQUAKE の line だと T=数重秒、

これは初動の断層破断時間だとみられます、最初のスリップ開始

しかも実例提示が何も無い??

Slow Earthquake こそが通常の地震なのでしょう、これには実例明示があります。



This is very curious enough site the URL is wrong, and had suddenly disappeared.  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/zisin/61/Supplement/61\\_329/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/zisin/61/Supplement/61_329/_pdf/-char/ja)

**付録 6: 単純平均で深度1以上の有感地震頻度 3~6 個/日となります。**  
**震度3は2個/3日, 震度4は1個/5日。震度5,6は大被害になる。**

報道 NHK 等の采配加減で地震が多いか、少ないかの世論操作ができるだろう。かつての熊本、今の能登も住民は頻発地震で困苦中です、報道一般は判りやすい地震報道は多いが、今後まじかの大局支配気候崩壊は全くの無視です。..無視で無知は過少評価する。

*有感地震の頻度(2015年9月修正)*

[https://www.zisin.jp/faq/faq01\\_06.html#:~:text=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%8A%E3%82%88%E3%81%B3%E3%81%9D%E3%81%AE%E5%91%A8%E8%BE%BA%E3%81%A7,%E7%99%BA%E7%94%9F%E3%81%99%E3%82%8B%E3%81%93%E3%81%A8%E3%82%82%E3%81%82%E3%82%8A%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82](https://www.zisin.jp/faq/faq01_06.html#:~:text=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%8A%E3%82%88%E3%81%B3%E3%81%9D%E3%81%AE%E5%91%A8%E8%BE%BA%E3%81%A7,%E7%99%BA%E7%94%9F%E3%81%99%E3%82%8B%E3%81%93%E3%81%A8%E3%82%82%E3%81%82%E3%82%8A%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82)

日本およびその周辺で人間のからだに感じる地震(震度1以上の有感地震)は、1年間に1,000~2,000回程度あります。単純に平均すると、1日あたり3~6個となりますが、有感地震が起こらない日が続くこともありますし、1日にまとまった数の有感地震が発生することもあります。

● **過去 10 年間(2010 年~2019 年)の最大震度別の月別地震回数**

[https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/monthly/201912/2010-2019\\_tsukibetsu\\_kaisuu.pdf](https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/monthly/201912/2010-2019_tsukibetsu_kaisuu.pdf)  
集計結果表と推移グラフがない。

震度3 屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。棚にある食器類が音を立てることがある。	$2816/3650=0.77$ 回/1日 ...3日 で 2 個ある。
震度4 眠っている人のほとんどが目覚ます。つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。	$768/3650=0.21$ 回/1日 ...5日 で 1 個ある

付録 7: 震源 4~6? 個が同時滑走開始? 同時同規模地震発生?? 2023/5/15  
 八丈島近海 M5 規模地震 **同地点同時多発** は異常<**海底爆弾地震嫌疑**>!!!

[1]: 気象庁地震情報一覧

<https://www.data.jma.go.jp/multi/quake/index.html?lang=jp>

発生が 同時期	震央地名	Magnitude 強震!	震源深度 同一深度	最大震度	発生同地点 0.1度=10km
<a href="#">2023/05/14 20:29</a>	八丈島近海	4.7	10km	震度 1	北緯 33.4 度 東経 139.4 度
<a href="#">2023/05/14 19:11</a>	八丈島近海	5.9	10km	震度 2	北緯 33.4 度 東経 139.3 度
<a href="#">2023/05/14 17:44</a>	八丈島近海	5.3	10km	震度 1	北緯 33.0 度 東経 139.0 度
<a href="#">2023/05/14 17:21</a>	八丈島近海	5.9	10km	震度 2	北緯 33.3 度 東経 139.2 度
<a href="#">2023/05/14 17:12</a>	八丈島近海	5.6	10km	震度 3	北緯 33.4 度 東経 139.3 度
<a href="#">2023/05/14 16:03</a>	八丈島近海	4.7	10km	震度 1	北緯 33.3 度 東経 139.3 度

八丈島近海で地震相次ぐ 気象庁、今後の活動に注意呼びかけ 海域の浅い場所で発生  
 ...大規模な地震で津波のおそれも...2013/5/14:23:02

<https://www.nkt-tv.co.jp/pc-news/news91g1yef8fkujz4uk8p.htm>

結論: 来日バイデンに直訴!!!

本件同時多発異常地震<犯罪>~M6が引き金になり、誘発地震可能性が起こる、

**大規模地震**になれば、発生は半年,,二年後とか時間遅れが大きい

直前に電離層電子密度異常増が起きるので事前予知可能→生命救済可能!!!

☞<超犯罪>: 3/11 東北大震災の巨大損害は津波被害、津波は海底爆弾複数の  
 時間調整で強化合成された、米海軍が同時期に同海上に居た事実がある。米は  
 犯罪被害に責務がある、{賠償+日米安保廃棄}に於けるべく、政府-国民運動を!!!

付録5: 地震規模と時間経過規模の非常に粗い推計。

M	☞☞☞☞☞ 時間数値は例えば±50,100%とかの大幅誤差あり					地震規模 (体積比例)	成長時間 (長さ比例)	破壊経過 時間
M4	1,27k	0,63	0,235k	0,12km	78m	0.631x10 <sup>11</sup>	1.6 年	16 日
M5	4km	2m	0.74km	0.34km	0.25km	0.200x10 <sup>13</sup>	5 年	50
M6	12,7k	6,32	2.35km	1.2km	0.78km	0.631x10 <sup>14</sup>	16 年	160
M7	40km	20m	7.4km	3.4km	2.5km	0.200x10 <sup>16</sup>	50 年	500

\* 成長時間=地球地層熱流動=プレート移動に伴う引きずり歪力最大値形成時間

\* 破壊経過時間=最大歪が引金刺激層滑走開始から最大速度衝突(地震発生)までの時間

**[2]: 米軍地震兵器攻撃 3/11 東北福島震災破綻裏側真相**

結果自業自得被爆の米艦船レーガン乗員裁判は取り下げ、墓穴掘になるから！！

**<精細証拠提示>!**

[http://777true.net/the-convergence-to-genuine\\_J95-Reverification-on-the-Criminal-3\\_11.pdf](http://777true.net/the-convergence-to-genuine_J95-Reverification-on-the-Criminal-3_11.pdf)

3/11 は自然地震力を人工誘発(電磁地震兵器 HAARP)、本震発生に同期して遠隔制御**海底設置爆弾**複数個で津波合成した結果、東北福島沿岸破綻。揺れ本震被害は意外にも小さい。特殊核爆弾と地震兵器技術保有は米国、3/11 東北福島破壊は**米軍戦争犯罪!!!**

9/17 追加: 付録1: 自然地震と爆発地震の初動地震波の決定的違い。

付録2: HAARP 基地→電離層高度→震源位置。

**「まるでGHQ だ」3・11 のトモダチ作戦に隠れた攻防... その時米軍は「日本再占領」に動いた**

<https://bungeishunju.com/n/nc9afa3562167>

**2011年3月11日に起きた東日本大震災は、ほんとうに自然発生地震だったのか**

**: 日本政府はなぜ、真相究明しないのか**

[http://blog.livedoor.jp/hisa\\_yamamot/archives/19281619.html](http://blog.livedoor.jp/hisa_yamamot/archives/19281619.html)

この米空母は、東電福島原発から、はるか離れた太平洋三陸沖の震源域にいたはずですが、なぜか、**大量に放射能被曝者が出たのです。**

**空母ロナルド・レーガンの被爆者が311人工地震の真実の生き証人**

[http://rkblog.html.xdomain.jp/201405/article\\_161.html](http://rkblog.html.xdomain.jp/201405/article_161.html)

**補遺:**

**【HAARP モニター観察】またまた M2.2 の中規模フレアが発生し太陽風の乱れが到来中!**

**→関東千葉の大地震はこれのせい!? 2023年05月11日**

<https://quasimoto4.exblog.jp/33253275/>

大量電荷が地球に飛来、震源層挙動に影響すると言われるが定量根拠?

電荷密度波同類だが、貫通性の波動伝搬侵入ではなく、粒子運動量侵入?